

みすずがけ 11号

平成 18 年 11 月 30 日 発行

「特集 中・近世の遺跡」

—北信・東信・南信での事例—



高遠藩の家臣の屋敷跡を上空から見る (東高遠若宮武家屋敷遺跡)

ひがしたかとうわかみやぶけやしき 表紙の解説～東高遠若宮武家屋敷遺跡（伊那市）

東高遠若宮武家屋敷遺跡では、高遠城に勤める家臣達の官舎である武家屋敷を調査しました。高遠に残る絵図によれば、天保年間（江戸時代：1830～1844）頃、調査地点には「小松純八」という武士が住んでいて、屋敷の間取り絵図と今回調査した建物の間取りがほぼ一致することが分かりました。写真の中で等間隔で並んでいる石が、建物の柱をのせる「礎石」です。「便所」は2箇所にありましたが、お客様用が陶器製、日常用が桶でつくられていました。また部屋で暖をとるための「囲炉裏」や「掘りごたつ」の跡、床下に食べ物を貯蔵した「室」も発見されました。

おもてまち 表町遺跡（飯綱町） 近世に消えたムラ

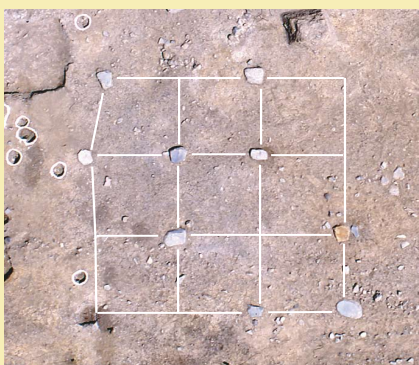


東西方向に掘られた中世の溝跡
(建物の軸は、この溝とほぼ同じ方向です。)

表町遺跡は、矢筒城（中世）の南に広がっています。昨年度より調査を始め、今から500年ほど前の集落がみつかっていました。今年の調査でも、掘立柱建物跡や溝跡、井戸跡、中世の陶磁器や石臼の破片など、当時の人々の生活の跡が出土し、集落は矢筒城の近くまで広がっていることがわかりました。

また、平安時代の竪穴住居跡も数軒みつき、表町のあたりには、平安時代の頃から人が住み始めたようです。しかし、この集落は、江戸時代の初めには消えてしまっています。なぜいなくなってしまったのか？いろいろな可能性をこれから考えてみたいと思います。

ひがしじょう 東條遺跡（千曲市） 広がりをもせる中世の屋敷跡



中世の礎石建物跡

姨捨の棚田で知られる急傾斜地の端に位置する東條遺跡は、山からの土石流や河川の氾濫などおびただしい砂や石によって形成された場所にあります。今年度の調査ではこのような石を多く利用した中世の遺構が発見されました。

写真は6m×6mほどの広さを持った建物跡で、大きさ50cm程の平らな石を礎石として利用していました。また、石を積んだ石組井戸の跡が全部で7基あり、作られた時期が鎌倉時代後半（13世紀後半～14世紀前半）までさかのぼる井戸もありますので、この頃には石を積み重ねて井戸を作る技術を持っていたことがわかります。他にも、厚さ2～3cm、大

きさ20cmほどの平石を1～2mの範囲に平らに敷いた跡や縦長に並べた跡などもみつかります。これらの遺構は、井戸を利用した当時の人の暮らした場所（屋敷）に関連する施設と考えられますが、明確な性格付けは今後の課題です。

訂正とお詫び:みすずかる10号3,4頁の「飯縄町」→「飯綱町」に訂正をお願いします。大変失礼いたしました。読者、関係者ならびに関係機関の方々にお詫び申し上げます。

トピックス!! 「重ない合う住居跡」

にしちかつ

西近津遺跡 (佐久市)

遺跡は佐久市の北西端、JR 佐久平駅から北西 500m ほどのところに位置し、浅間山南麓の傾斜のゆるい台地上に立地します。標高は約 700m です。約 4,000 m²ほどを調査し、弥生時代後期から平安時代（約 1800 年～ 900 年前）の住居跡約 200 軒が発見されています。約 900 年にわたって営まれた集落の跡です。長い間につくられた竪穴住居跡や掘立柱建物跡が同じ場所に繰り返しつくられたために、写真のように複雑に重なった状態でみつかっています。

佐久地方では、弥生時代中期後半から後期になると集落が増加することや古墳時代後期から平安時代にかけて、大規模な集落がつくられたことがわかってきています。本遺跡周辺には古代の郡衙（ぐんが役所）があったのではないかと推定されていることから、大規模集落や郡衙とのかかわりについてなど、検討しなければならない課題がたくさんあります。



右の写真は、弥生時代後期の住居跡から出土した、二股の土製勾玉です。上部には孔あなが開けられていて、ヒモをとおして装身具として使用されたと推測されます。大きさは長さ 32mm、最大幅 17mm、厚みは 8mm を測ります。全国的には 200 例ほどあり、長野県では中野市や長野市をはじめ数例出土しています。



現地説明会から

西近津遺跡（佐久市）

9月16日（土）、地元の方々を中心に、100名を超える皆さんが現地説明会にお越し下さいました。屋外の会場では、時代の異なる住居跡や掘立柱建物跡が幾重にも重なりあう状況を解説を交えて見ていただき、会場内のプレハブでは、出土した主な遺物の時期の違いによる形の変化や特徴を間近でみていただきました。

わずかな時間ではありましたが、佐久地方の古代の一端に触れていただけたかと思えます。



現地説明会：西近津遺跡（中部横断道路建設予定地・佐久市）



表紙写真の施設案内

調査の結果、絵図と間取りは150年前とほぼ一致しますが、明治以降に便所や囲炉裏、掘りごたつ、室などの施設は作りかえられている可能性も考えられます。今後の資料検討で時代を明確にしたいと考えています。

各地の紅葉便りは南下し、信州の山々は次第に冬景色へと変わってきました。遺跡の調査ではさまざまな成果を得ましたが、早いものでそろそろ終盤を迎えます。それらの成果は、年明けの3月～5月にかけて開催される速報展の中で公開いたします。ご期待ください。

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007
長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail maibun@grn.janis.or.jp
HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

※タイトルの由来：「みすずかる」＝御簀刈る。

御は、次に続く文字に尊敬や丁寧の気持ちを込める意。簀（すず）は篠竹（すすだけ）の意。刈るは、刈り取るの意。篠竹が信濃に多く採れることから、地名の信濃に係る枕詞（まくらことば）として慣用される。